

「入試過去問題活用宣言」に基づく過去問題利用について

平成20年3月12日(水)に実施した、平成20年度信州大学繊維学部入学者選抜個別学力検査等〔後期日程〕において、「入試過去問題活用宣言」に基づき以下のとおり過去問題を利用して出題しました。

過去問題を利用して本学が出題した問題について	
出題教科・科目	理科（生物Ⅰ・生物Ⅱ）
問題番号	第5問
過去問題の改訂	問の表現と問題の数を改訂した。
利用した過去問題について	
問題作成大学	山梨大学
出題入試年度	平成16年度
教科・科目	理科（生物ⅠB・生物Ⅱ）

過去問題を利用した問題（抜粋）を、次のページに掲載します。

5 日本のような温暖で降水量の多い地域では、陸上に火山台地としての裸地が出現すると、やがてそれは草原生態系を経て、安定した森林生態系に移行する。以下の間に答えよ。

問1 このような生物群集の変化を何というか。

問2 このような変化の中で到達された生物群集の安定な状態を何というか。

問3 日本の本州付近では、安定な状態に到達するまでにおよそ何年かかるか。
下記より適切なものを選び、番号で答えよ。

- (1) 1～5年 (2) 10～20年 (3) 30～50年
- (4) 100～500年 (5) 2千～5千年 (6) 2万～5万年
- (7) 20万～50万年

問4 日本の森林生態系には、亜熱帯多雨林、夏緑樹林(落葉広葉樹林)、照葉樹林(常緑広葉樹林)および針葉樹林がみられる。このような森林生態系の違いをもたらす主要な環境要因を一つあげよ。

問5 熱帯多雨林、亜熱帯多雨林、夏緑樹林、照葉樹林、雨緑樹林、針葉樹林、硬葉樹林のうち、日本の本州で自生する森林生態系を選び出し、それらを低地林から高地林の順に並べよ。

問6 照葉樹林に特徴的な樹種と夏緑樹林に特徴的な樹種を下の樹種群から二つずつ選べ。

樹種群：クスノキ、コメツガ、シラビソ、タブノキ、ミズナラ、
ハイマツ、ブナ、ナナカマド、クロユリ、シナノキンバイ、
キバナシャクナゲ、トウヒ

問7 日本の陸上生態系においても、森林生態系に移行せずに草原生態系が長いあいだ維持されることがある。どのような場合に、草原生態系が維持されるか、その例を三つあげよ。